

2019年12月期

決算説明資料

2020年2月27日

 **木徳神糧株式会社**
証券コード：2700



2019年12月期 連結業績の概況

決算ハイライト (P/L)

増収・営業減益

単位：百万円

	前期 (2018年)	当期 (2019年)	増減額	前年同期比
売上高	114,345	117,612	3,267	102.9%
売上総利益	6,247	5,561	△686	89.0%
売上比	5.5%	4.7%		
販売費および 一般管理費	5,445	5,484	39	100.7%
売上比	4.8%	4.7%		
営業利益	802	76	△726	9.5%
売上比	0.7%	0.1%		

米穀事業の大幅減益

決算ハイライト (P / L)

単位：百万円

	前期 (2018年)	当期 (2019年)	増減額	前年同期比
営業利益	802	76	△726	9.5%
売上比	0.7%	0.1%		
経常利益	827	624	△203	75.5%
売上比	0.7%	0.5%		
特別損益	△266	△21	245	7.9%
台湾子会社の減損	-0.2%	-0.0%		
親会社株主に帰属 する当期純利益	283	676	393	238.9%
売上比	0.2%	0.6%		

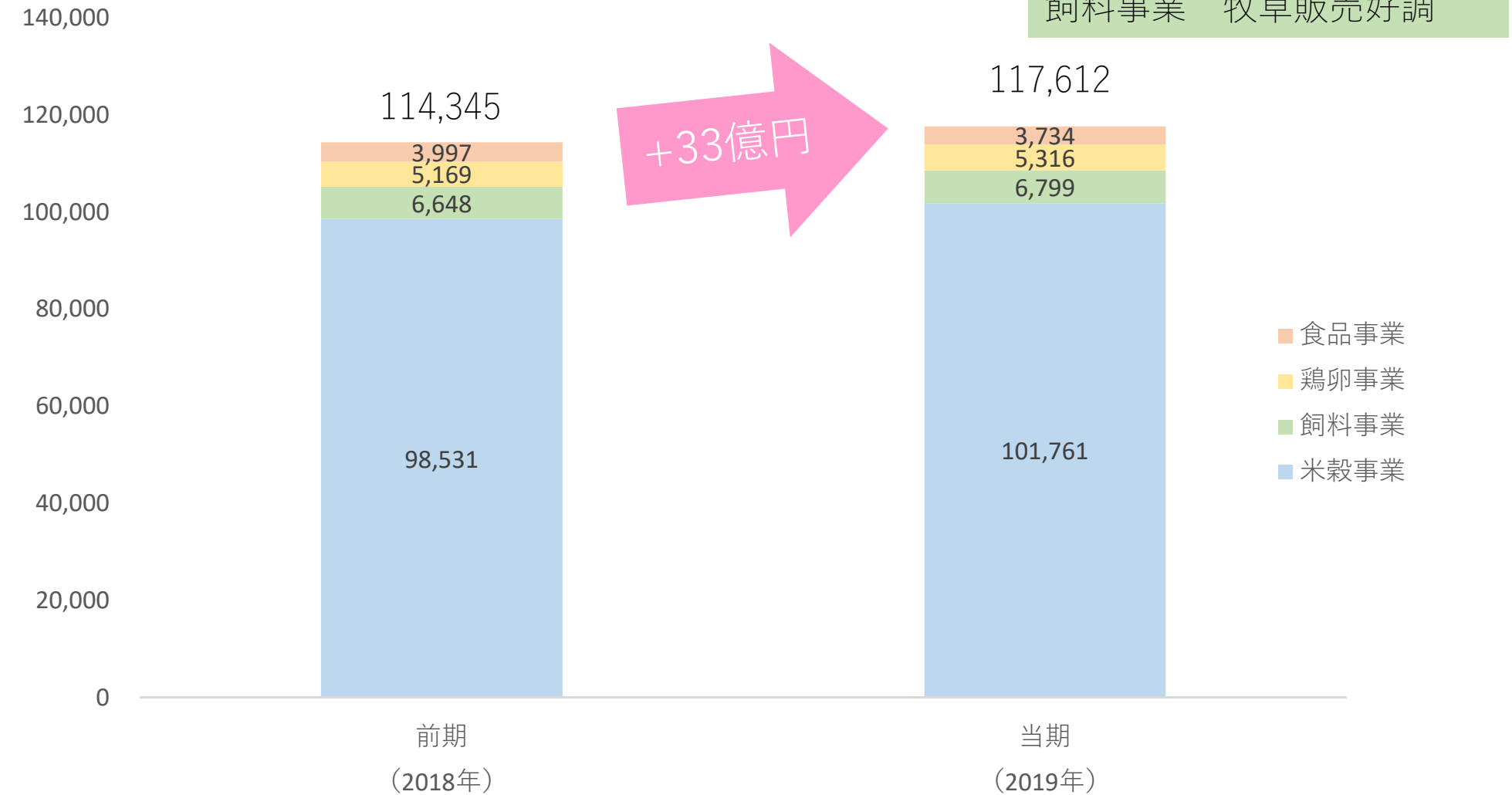
東日本産業の持分法適用
関連会社化による投資利益

台湾子会社の撤退に伴う
税金費用の減少



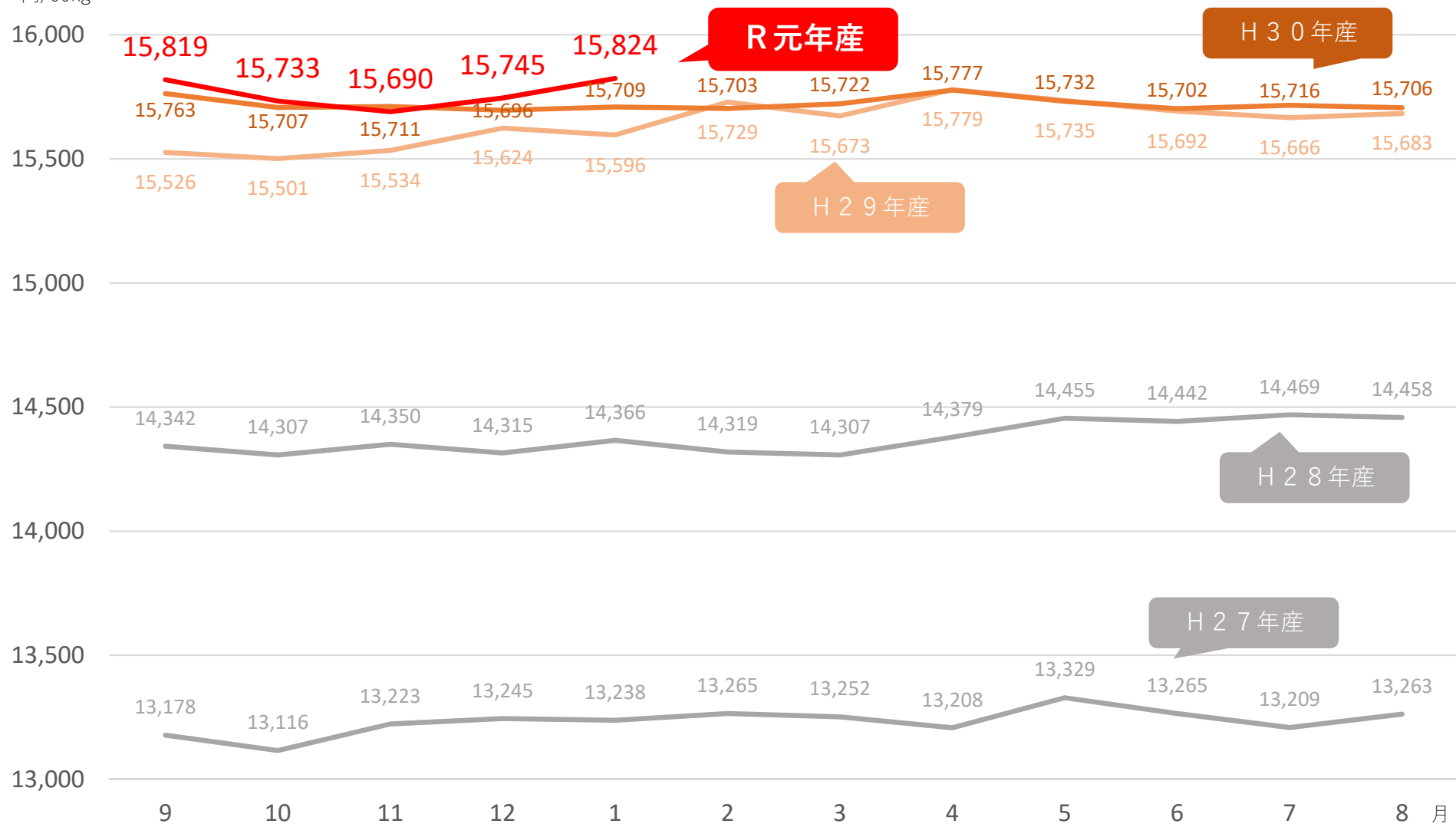
売上高（セグメント別）

単位：百万円



コメの相対取引価格の推移

単位：円/60kg



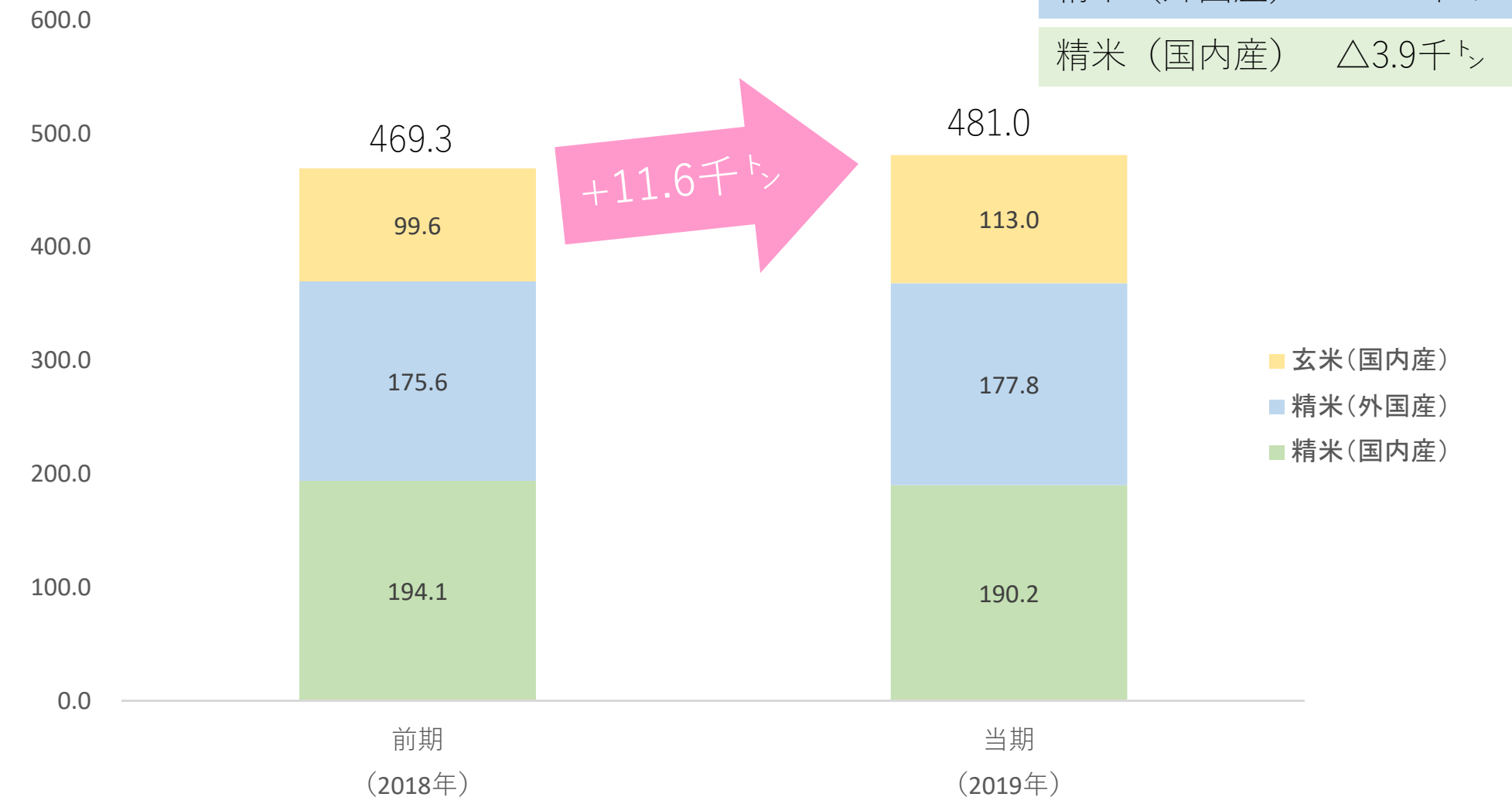
注：1. 価格には、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

2. 相対取引価格は全銘柄平均価格であり、産地銘柄ごとの前年産検査数量ウエイトで加重平均した価格である。



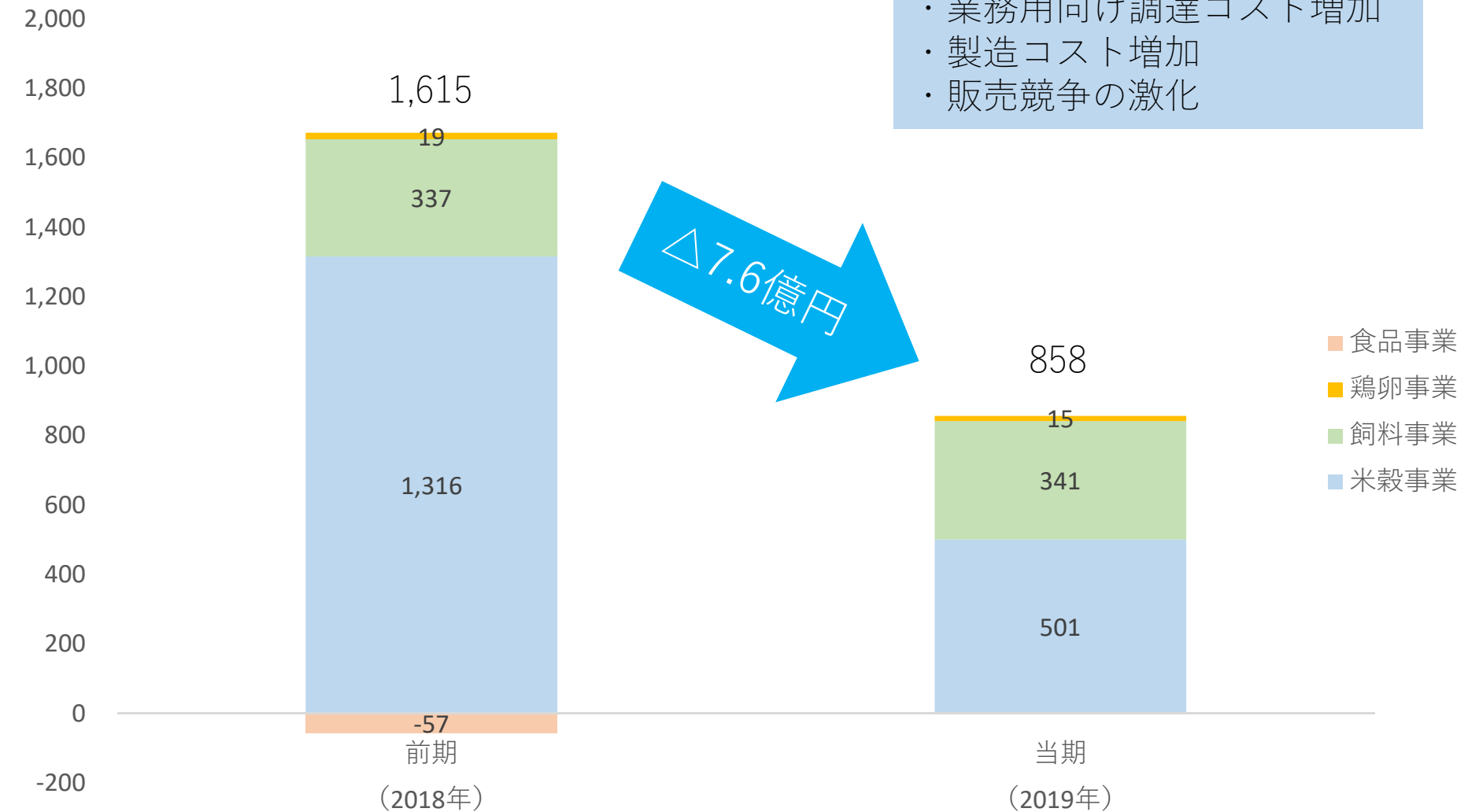
販売数量（米穀事業）

単位：千トン



営業利益（セグメント別）

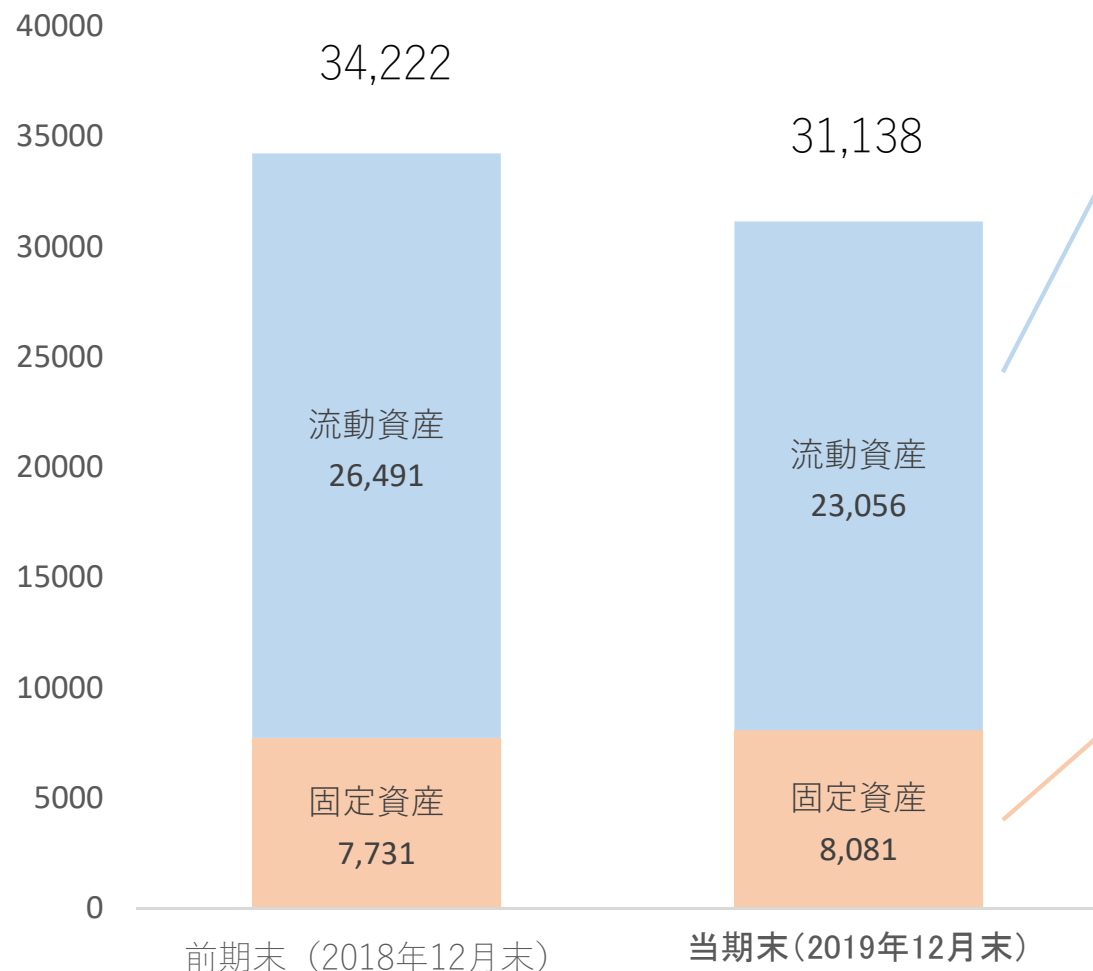
単位：百万円



資産、負債及び純資産の状況（1）

【資産の部】

単位：百万円

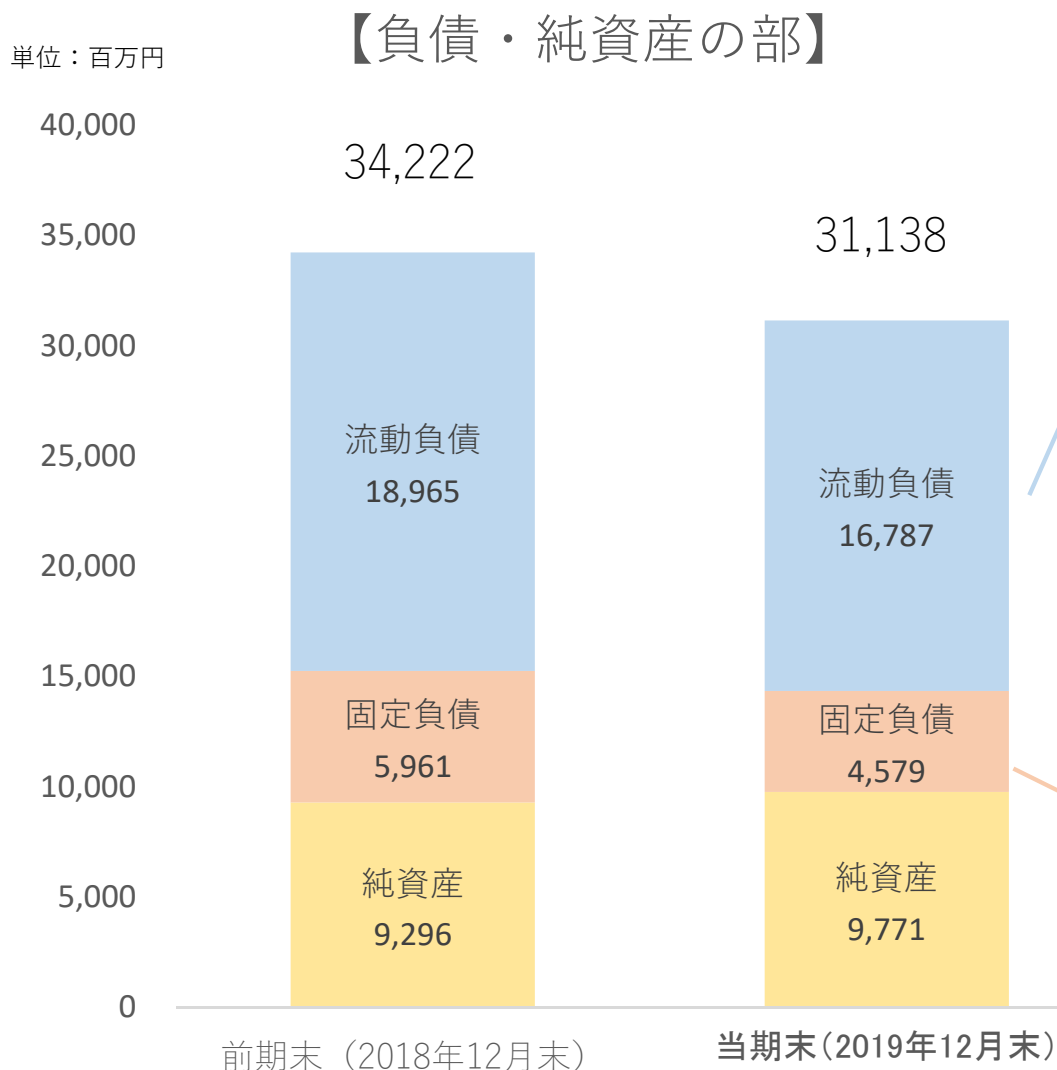


流動資産	△3,435
前渡金 ^(※)	△2,368
棚卸資産	△1,048
現金・預金	△224

(※) 要因は主にミニマム・アクセス米に係る取引によるもの

固定資産	+ 350
投資その他の資産	+356

資産、負債及び純資産の状況（2）



流動負債 $\Delta 2,178$
 前受金 (※1) $\Delta 2,466$
 短期借入金等 (※2) $\Delta 352$
 買掛金等 $+ 749$

(※1) 要因は、ミニマム・アクセス米に係る取引によるもの。

(※2) 1年以内返済予定の長期借入金を含む。

固定負債 $\Delta 1,382$
 長期借入金 $\Delta 1,223$



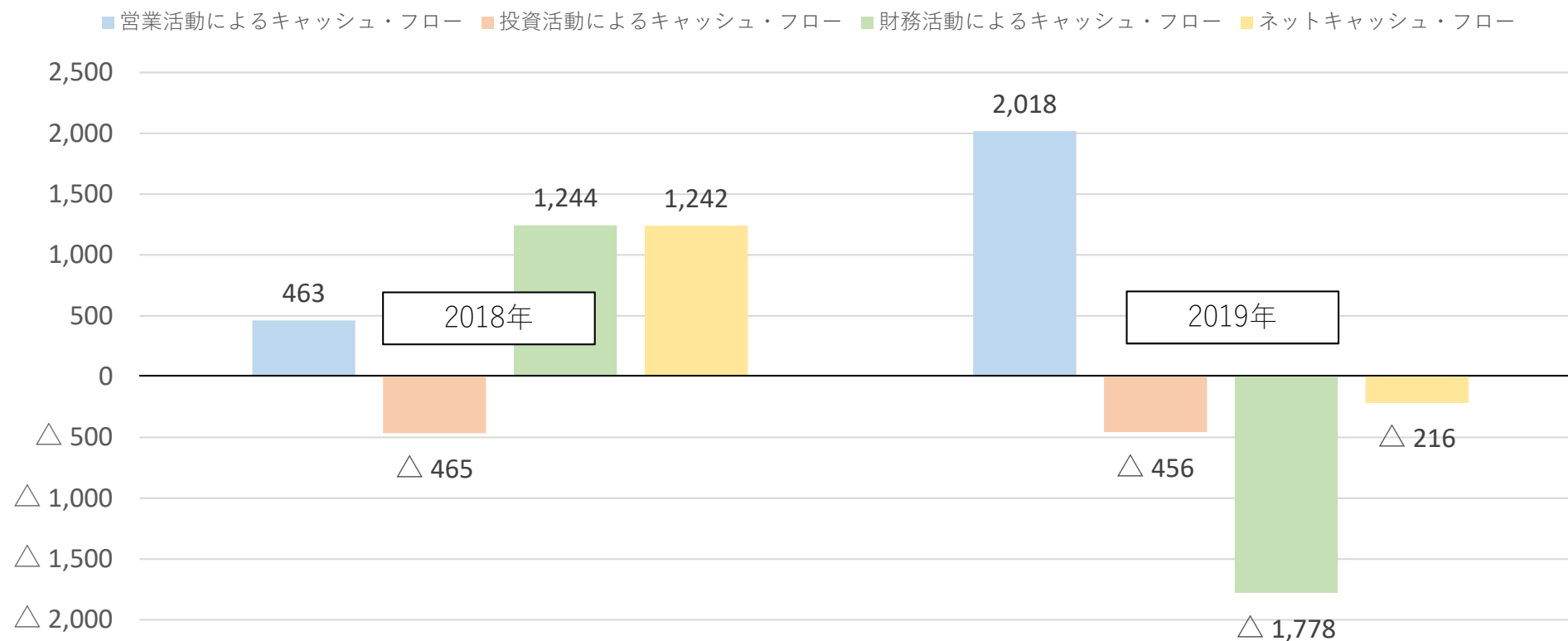
決算ハイライト (B / S)


	前期末 (2018年12月末)	当期末 (2019年12月末)	増減額
総資産 (百万円)	34,222	31,138	△3,084
純資産 (百万円)	9,296	9,771	+ 475
自己資本比率	26.8%	31.0%	+ 4.2
1株当たり純資産 (円)	5,549.01	5,948.41	+ 399.40

(参考) 自己資本：2018年12月末 9,169百万円、2019年12月末 9,639百万円。

決算ハイライト (C/F)

	前期 (2018年)	当期 (2019年)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	463	2,018	1,555
投資活動によるキャッシュ・フロー	△465	△456	9
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,244	△1,778	△3,022





經營戰略

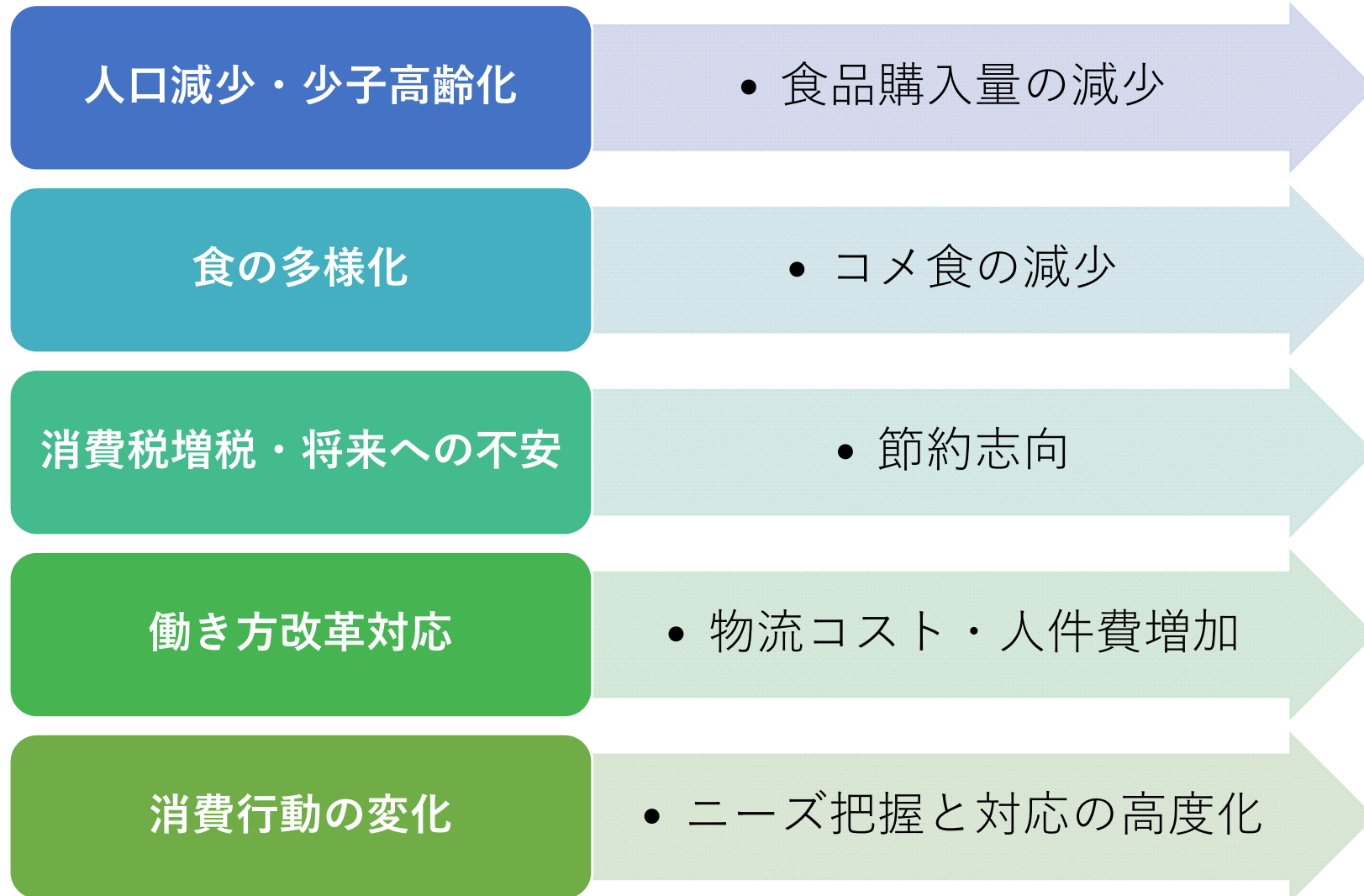


経営理念

コメビジネスを軸に世界中の消費者に
コメとコメ関連食品の素晴らしさを発信し、
健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。



当社を取り巻く経営環境



今までと同じやり方では
生き残れない

米穀事業(国内)の構造改革

- ・ 仕入構造改革の推進
- ・ 製造部門のコストダウン
- ・ 提案営業実践の強化

新規事業・新商品開発の本格化

- ・ 海外市場におけるチャレンジ
- ・ 連携強化による開発の加速化



経営戦略（米穀事業（国内）の構造改革①）

●仕入構造改革の推進

■家庭用向け産地精米の拡大によるコストダウン

- 産地工場との業務提携を進め、自社工場と同水準の品質を確保（純情米いわて、パールライス宮城からスタート）
- 営業と製造との協力でアイテムを集約

■業務用向け需給ミスマッチ解消への対応強化

- エリア毎に地産地消に適した多収穫米品種の拡大（2019年 800ha 5,000トン→2020年計画 1,600ha 10,000トン）
- 主要産地との事前契約の拡大
- ニーズに応じて外国産米ブレンド商品等の提案

■協力圃場でのスマート農業実践（秋田、宮城、群馬、福岡）

- ドローン活用による効率化、生産費削減、減農薬

経営戦略（米穀事業（国内）の構造改革②）

●製造のコストダウン

■自社精米工場の改革

- 自社精米と委託精米の最適化、工場別に機能の選択と集中
- 業務用精米への対応強化（全国各工場ラインの改造）
- 設備の省力化や自動化に積極的に投資
桶川工場に自動開袋機を導入済（全国各工場へ展開）



桶川工場稼働中の自動開袋機

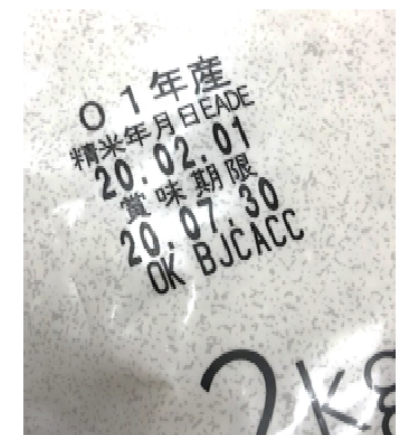
経営戦略（米穀事業（国内））の構造改革③

●提案営業実践の強化


■新規取引先開拓の強化

■環境対応の取り組み推進

- 取引先との共同取組みでコメ袋のプラスチック使用量を削減
家庭用紙袋商品の検討、二重包装見直し、業務用フレコンの活用
- 賞味期限表示商品（長鮮度米®）の拡販
(計画精米によるフードロスの削減)
(精米に関する表示基準の変更へ先行して対応)



賞味期限（6ヶ月）を印字した
長鮮度米シリーズ



経営戦略（新規事業・新商品開発の本格化①）

●海外市場におけるチャレンジ

■海外消費地における現地精米設備の構築

- ・今期中に東南アジアに新規拠点を開設予定

■海外産ジャポニカ米の生産指導を強化し、 品質の向上と第三国輸出拡大を目指す

- ・日本の手法による品質、国際規格に準じた安全性の確保

■ベトナムでスマート農業へのチャレンジ

- ・現地の試験圃場（2 ha）でデータ収集から取り組み

経営戦略（新規事業・新商品開発の本格化②）

●連携強化による開発の加速化

- 部門横断型の商品開発プロジェクトチームの立ち上げ

- 産学連携や異業種提携の推進

東京農業大学と米タンパク関連の共同研究を推進中

- 米粉や副産物で家庭用グルテンフリー商品を開発



経営戦略（飼料事業・鶏卵事業）

飼料事業

- 飼料メーカー再編への対応強化
- 国内物流網の強化・効率化
- 国内仕入れ先の広域化



重要拠点港である岡山県倉敷市の飼料コンビナート

鶏卵事業

- 食品加工メーカーと協力し高付加価値商品の開発



鮮魚コーナーで販売する玉子焼き



黄身だけを使用したプリン



冷凍肉団子



2020年12月期 連結業績予想

2020年12月期連結業績予想

単位：百万円

	2019年12月期 実績	2020年12月期 予想	増減額	増減率	2022年12月期 目標（参考）
売上高	117,612	111,000	△6,612	△5.6%	117,000
営業利益	76	400	+ 324	+ 422.6%	620
経常利益	624	430	△194	△31.1%	640
親会社株主に帰属する 当期純利益	676	330	△346	△51.2%	460

【主要増減要因】

売上高 : 前期に比べミニマム・アクセス米の取扱数量の減少を予測、玄米販売数量減少

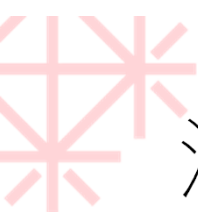
営業利益 : 米穀事業の収益改善と経費削減

経常利益 : 前期の営業外収益、持分法による投資利益412百万円が剥離

【中期三カ年2020年～2022年】

構造改革の集中期間とし、

地道にコツコツ収益体制の再構築と将来に向けた投資に注力、確実に成果を出す



注意事項

本資料は、会社情報、経営計画、連結業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料のうち、業績予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等と異なる可能性があります。

本資料は、2020年2月27日現在のデータに基づき作成しております。

【お問い合わせ先】

木徳神糧株式会社 社長室

TEL：03-3233-5125 Email:ir@kitoku-shinryo.co.jp

URL <https://www.kitoku-shinryo.co.jp/>